

## 九州歯科大学第71回卒業式

### 式辞

今年度も依然として、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、国内外を問わず、人々の心身を脅かす存在となっています。大学としては、COVID-19 対策会議のもと組織的に対応し、教育・研究・診療において、学生・教職員が安全・安心な就学・就業環境のもと活動できることを最優先に考えて大学運営を推進してきました。

今日、卒業式に臨んでいる歯学科六年次生、口腔保健学科四年次生は、このような環境下で、適正に COVID-19 ワクチン接種を受け、実習生として臨床経験を重ね、今日の日を迎えることができました。

今年度の卒業式も、COVID-19 禍中ということ鑑み、「新たな生活様式」のもとでの「密閉、密集、密接」いわゆる三密回避に配慮した式次第で執り行います。そのようななか、本日、ここに、服部誠太郎福岡県知事及び桐明和久(きりあけ かずひさ)福岡県議会議長のご出席を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げます。一方、COVID-19 の現況を鑑み、来賓各位ならびに保護者の皆さまに対しては、ご臨席のご案内を控

えさせていただきます、オンラインでご覧いただく環境を調べました。本学に入学以来、成長を見守ってこられた皆様方のお喜びは一方ならぬものと拝察しております。今年度は、直接、言葉でお伝え出来ないもどかしさを感じるなかではありますが、保護者の皆さまには、この場にて心よりお祝い申し上げます。

さて、歯学科71期生および口腔保健学科10期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。今日の皆さんは、卒業証書・学位記を手にして、入学時から今日まで過ごした大学での思い出がつぶさに蘇り、感無量のことと思います。送る立場の我々教職員も、歯科医療の世界で、明日から君たちが澁刺として活躍する姿を思い浮かべ、社会に貢献する歯学士および口腔保健学士に育て上げたという安堵感とともに、本学で培った歯科医療に関する知識・技能・態度をもって、これからの厳しい実社会での成功を切に願っています。

さらに、今年度の教育も、COVID-19 禍中、三年前とは異なる環境で展開されてきたなかで、今日の卒業式に臨んでいる学生諸君に対して、これから歯科医療人として口腔保健医療活動に従事するにあたり、「宿命に挑み、夢見て行う」という言葉を贈ります。ぜひ、この思いを胸に抱き、いかなる状況においても、生涯学習の気持ちを持ち続けるなかで、何事

においても、常に前向きにチャレンジする精神をもって、歯科医療人としてお励みください。

九州歯科大学は、2015年10月、あらたに九州歯科大学憲章を制定し、これまでの三つの基本理念に加え、六つの教育研究目標を掲げ、実践的な歯科医療人育成教育を推進してきました。この九州歯科大学憲章の前文には、「平成26年の創立百周年を機に九州歯科大学は、次なる世紀に向けて患者中心の歯科医療が提供できる人材の育成を第一義に掲げ、学生、教員、職員の三者が一体となって、理念の共有と目標の実現を目指します」という文言が綴られています。この憲章のもとで、歯学教育を展開するにあたり、求められる三つのポリシー、すなわち、「このような人材を育てます」という視点でのディプロマ・ポリシー、「このような教育を行います」という視点でのカリキュラム・ポリシー、「このような学生を求めています」という視点でのアドミッションポリシーを定め、社会に向けて発信しています。さらに、これに符合させる形で、本学の二つの学科それぞれに卒業コンピテンシーを定め、学部教育を展開しています。まさに、このような特徴的な実践教育を展開している本学で学修してきた皆さんは、大学卒業後、あらたな組織で歯科医療人として活動していくにあたり、その基盤となる「知識・技能・態度」はしっかりと身につけていると判定され

ました。このことを矜持として胸に刻み込み、これから先、いかなる状況にあっても、本学での教えを基盤にして、常に高い志と向上心を忘れることなく、生涯学習に励んでください。そして、様々な局面で自らに課題を課し、培ってきた知識と技能ならびに高い倫理観をもって行動する社会人になることを切に願っています。

古き良き伝統を有する九州歯科大学は、設置団体の福岡県の温かいご支援のもと、これまで通り、歯科医療界を牽引する実践的歯科医療人を育成していくことに変わりはありません。

2014年5月の創立百周年記念式典後に整備した九州歯科大学基金を活かし、九州歯科大学はあらたに Global and Local Academic Collaboration を掲げ、アジア諸外国や欧米の歯科教育機関との間で締結した教育連携協定を軸に幅広い国際連携活動を展開しています。君たちのなかには、数年前、この活動の一つである国際連携推進事業のもと、外国で研修し、海外派遣プログラムの単位を取得した学友がいるかと思います。

一方で、医療改革の流れのなかで、我が国では、2025年を目途に「地域包括ケアシステム」が展開されます。そのなかで、我々歯科医療人には、これまでの歯科診療所での医療に加えて、多職種連携を通じて、

地域住民の健康増進に貢献することが強く求められます。九州歯科大学は、このような歯科医療を取り巻く環境の変化をいち早くとらえ、歯学教育を改編してきました。そのようななか、今年度の卒業生は、COVID-19 禍中ということもあり、本学附属病院実習以外の医科総合病院や介護施設での臨地実習を当初の予定通りに経験することができませんでした。誠に残念ではありますが、歯科医師と歯科衛生士からなるオーラルヘルsteamとしての活動は、今後、ますます重要となってきます。本学では、このようなオーラルヘルsteamによる医療活動を重点項目として捉えて、ポストコロナを見据えて、大学として教育組織再編をさらに充実させていきます。今後、卒業生の皆さんも、卒業後の歯科医療活動において、本学の歩みに同調した生涯学習を重ね、新たな歯科医療に取り組むことを望みます。

むすびに、皆さんもよく知っている宮沢賢治作の「雨にも負けず」をお伝えします。私自身、小学生の頃は暗記し、自然と言葉が出てきたのですが、今では叶いません。読ませていただきます。

雨にも負けず 風にも負けず

雪にも夏の暑さにも負けぬ丈夫なからだをもち

慾はなく 決して怒らず いつも静かに笑っている

一日に玄米四合と味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを自分を勘定に入れずに  
よく見聞きし分かり そして忘れず  
野原の松の林の陰の小さな萱ぶきの小屋にいて  
東に病気の子供あれば 行って看病してやり  
西に疲れた母あれば 行ってその稲の束を負い  
南に死にそうな人あれば 行ってこわがらなくてもいいといい  
北に喧嘩や訴訟があれば つまらないからやめろといい  
日照りの時は涙を流し 寒さの夏はおろおろ歩き  
みんなにでくのぼーと呼ばれ 褒められもせず 苦にもされず  
そういうものに わたしは なりたい

この詩にふれるにつけ、平凡と言え、まさしく平凡と感ずます。しかし、この平凡な言葉の流れのなかに、人生の心理が存在することを卒業生諸君には、深く心に刻み込んでいただきたいと思つています。これまで様々な場で語り掛けてきたように、歯科医療人としての志は大きくなければなりません。しかし、理想は一足飛びに達成することはできません。さらに、理想が大きければ大きいほど、長い時間の勉強

が必要です。このことを忘れずに、これからの人生において、平凡な生活を大切にして、人の痛みを感じる歯科医療人として日々お励みください。このような思いを伝え、私からの式辞とします。

令和5年 3月15日

九州歯科大学

学長 西原 達次